

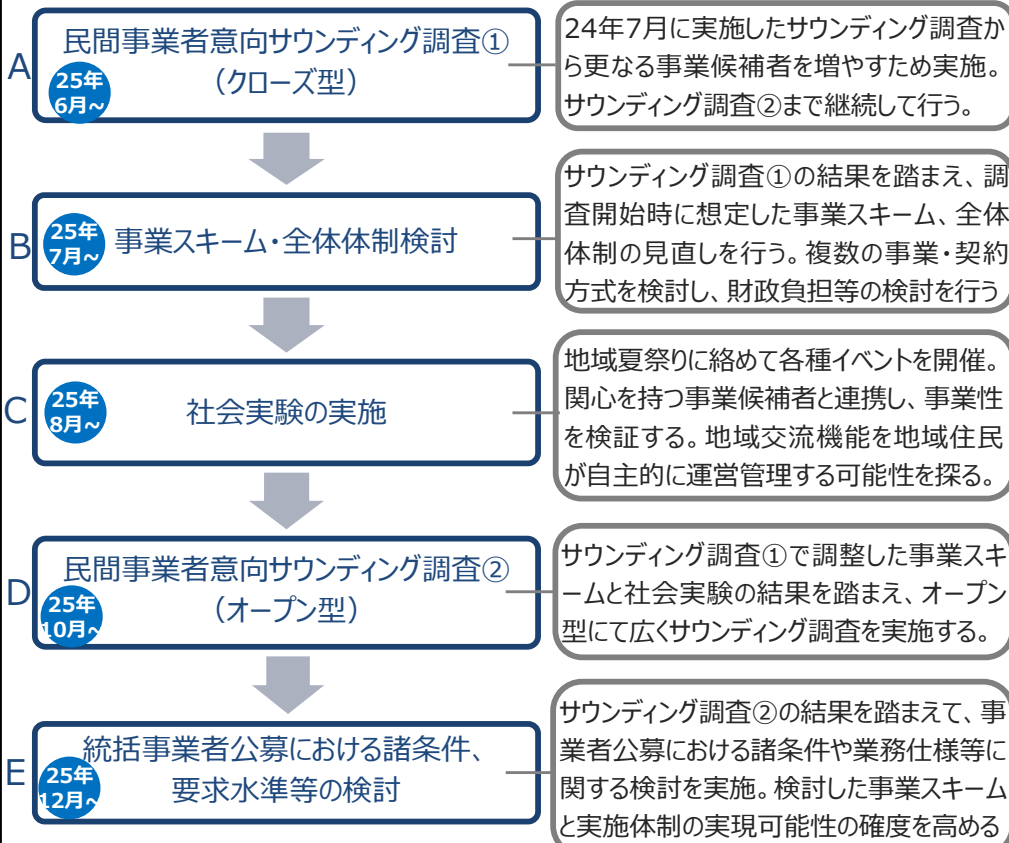
【テーマ③】養父市関宮小さな拠点 官民連携事業導入可能性調査

【調査主体】兵庫県養父市(人口2.0万人)

調査目的・概要

本調査の目的は、過疎化・高齢化が進む養父市関宮地区において、多目的ホールの跡地を活用し、地域住民の生活向上と地域活性化を目指す複合施設「小さな拠点」を整備するための**運営管理体制や事業スキームを検討**することです。施設計画では、公民館機能を備えた**地域交流施設**、売店やレストランなどの**商業施設**、**医療・福祉施設**、バスターミナル、冬季の**高齢者孤立に対応する短期滞在型施設**などを一箇所に集約し、地域住民の日常生活に必要な機能を提供することを目指しています。施設運営においては、自治体が直営するのではなく、多くの**事業者が参画する民間中心の運営体制を構築する方針**です。住民ワークショップや事業者ヒアリング、社会実験などを通じて、地域ニーズや**統括事業者参画の実現性**を検証し、**地域住民と事業者双方が参画しやすい仕組み**を検討します。この取り組みにより、持続可能で多世代が交流できる地域づくりを実現することを目指します。

調査内容・スケジュール



本調査は、過疎化と高齢化が進む養父市関宮地区において、地域交流施設、商業施設、医療・福祉施設など多機能を持つ「小さな拠点」を整備し、**効率的かつ持続可能な運営管理体制を官民連携で構築するための基礎を確立**することを目的としています。調査では、住民や事業者へのヒアリング、社会実験を実施し、福祉エリア、商業エリア、地域交流エリアの**三つそれぞれの運営管理を担う事業者**と、それらを**統括する事業者**が参画しやすい仕組みや**実現可能な運営体制を検討**します。この取り組みは、自治体の財政負担を抑えながら、地域全体の活性化と住民の生活の質向上を図るもので、全国的に先例の少ない**中山間地域における課題解決モデル**としての先導性があります。調査結果は、2027年度の供用開始に向けた事業計画に反映されるとともに、他地域への展開可能な好事例を目指し、持続可能な地域づくりの具体的な方向性を見いだすことを期待します。

調査スケジュール

調査内容	6月	8月	10月	12月	2月
民間サウンディング					
事業スキーム検討					
社会実験					
各種諸条件・要求水準等検討					
まとめ					

【テーマ③】養父市関宮小さな拠点 官民連携事業導入可能性調査

【調査主体】兵庫県養父市（人口2.0万人）

事業・施設の概要



中山間地域に位置する養父市関宮地区において、かつて地域振興拠点として機能していた多目的ホール「エイドホール」が、老朽化と利用者減少により取り壊され、地域住民からは跡地の活用として**地域交流拠点とする要望**が上がっていた。それらの要望を受け市は、国土交通省が推進する地域の課題解決と持続可能な地域づくりを目指した取り組みを参考に、公民館機能を備えたコミュニティ施設を中心に、売店やレストランなどの商業施設、歯科医院や薬局、デイサービスを含む医療・福祉施設、関宮地域の交通拠点となるバスターミナルを集約した「**小さな拠点**」の整備を決める。さらに、居住者密度が低く、一人暮らしの高齢者が多い関宮地区の課題に対応して、豪雪によって孤立する冬季に、**地域内2拠点生活を可能にする短期滞在型施設を複合する計画**とした。

施設全体の規模は約2000㎡程度であり、2024年度から基本設計を開始しているが、今後は運営管理に関して様々な事業者の参画とそれらを取りまとめる統括事業者による実施体制の構築に向けた取り組みが必要となる。

■ 関宮小さな拠点イメージパース



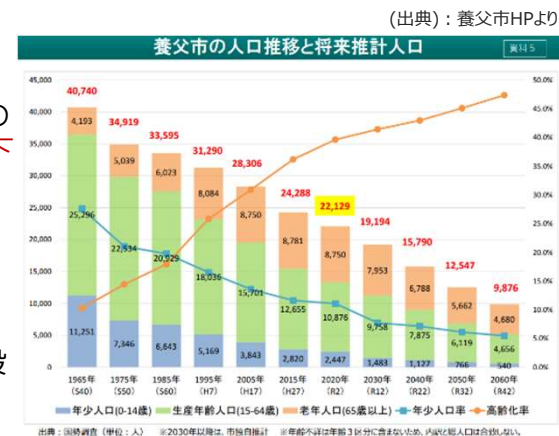
■ 関宮の風景



■ 冬の関宮の風景

事業・施設の課題

養父市は2004年に4つの町が合併して誕生したが、過疎化や高齢化の進行に伴い、かつて関宮地域の経済と行政の中心だった**本事業周辺エリアの活力低下が深刻化**していた。市はその対策として、関宮地区に生活に必要なサービスを一箇所に集約した「**小さな拠点**」の整備を決めたが、多数の事業者が参画する施設運営における**直営の非現実性**や、施設全体を**統括する事業者の不在**、施設の**維持管理費の負担増**、などが大きな課題となっていた。



検討経緯／事業化スケジュール

地域の多目的ホールが老朽化のため解体され、**その跡地利用として2020年度から「小さな拠点」を整備する計画**から始まった。当初は、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）と小規模多機能型居宅介護施設（小多機）の併設が検討されたが、周辺の福祉事業者から、サ高住における家賃の高額化や、小多機における収益性の課題などが指摘され、**介護度の低い高齢者や多世代が利用可能な短期滞在型施設と、小多機よりも事業者負担が少ないデイサービスを「小さな拠点」に複合させる案**が検討された。さらに「小さな拠点」を自治体が直営するのではなく、**施設全体の統括運営管理を民間事業者委託**する可能性を検討することとなった。

● 2020年度～2023年度：コンセプト作成及び住民ワークショップ(WS)の開催。医療と併設する福祉施設は、「サービス付き高齢者向け住宅」と「小規模多機能型居宅介護施設」とすることを検討。

● 2024年度：住民WS、事業者サウンディングの開催。設計者選定と基本設計・実施設計1の実施。I期工事施工者選定の実施。医療施設と併設する福祉施設は、デイサービスと「**介護度の低い高齢者や多世代でも滞在が出来る短期滞在型施設**」を**複合する案**を検討。

※今後の事業スケジュールは以下を予定している。

● 2025年度：実施設計2の実施、I期工事の施工。II期工事の施工者選定の実施。統括事業者サウンディングの実施。統括事業者公募における要求水準書等の検討。

● 2026年度：II期工事の施工。統括事業者選定の実施。

● 2027年度：供用開始。